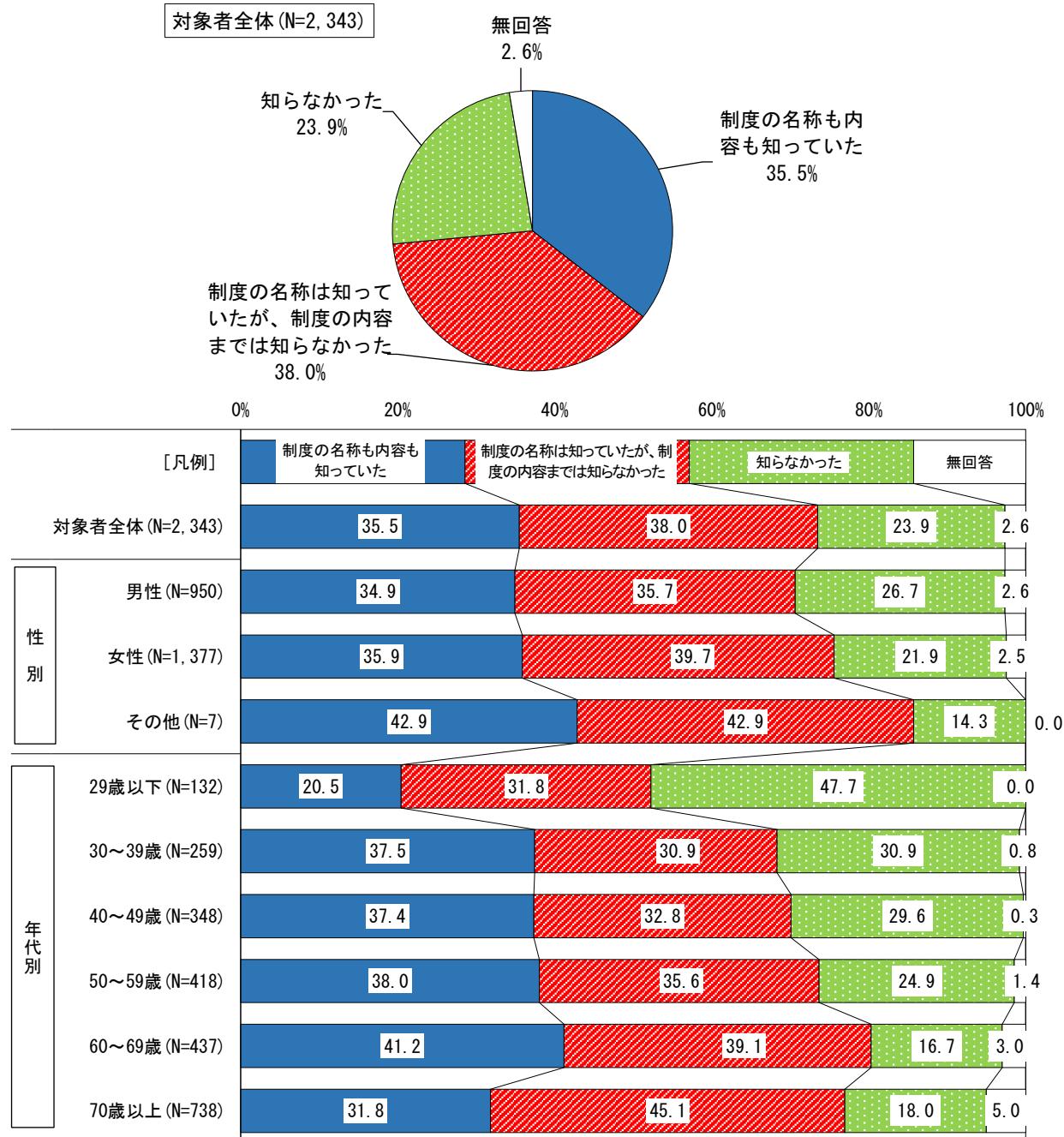


## (3) 成年後見制度について

## ◇成年後見制度の認知度

問8 あなたは、「成年後見制度」を知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

**成年後見制度について、制度の名称だけでなく、制度の内容も知っていた人は 35.5%**



**【全 体】**成年後見制度の認知度は、「制度の名称も内容も知っていた」が 35.5%、「制度の名前は知っていたが、制度の内容までは知らない」が 38.0%、「知らない」が 23.9%となっている。

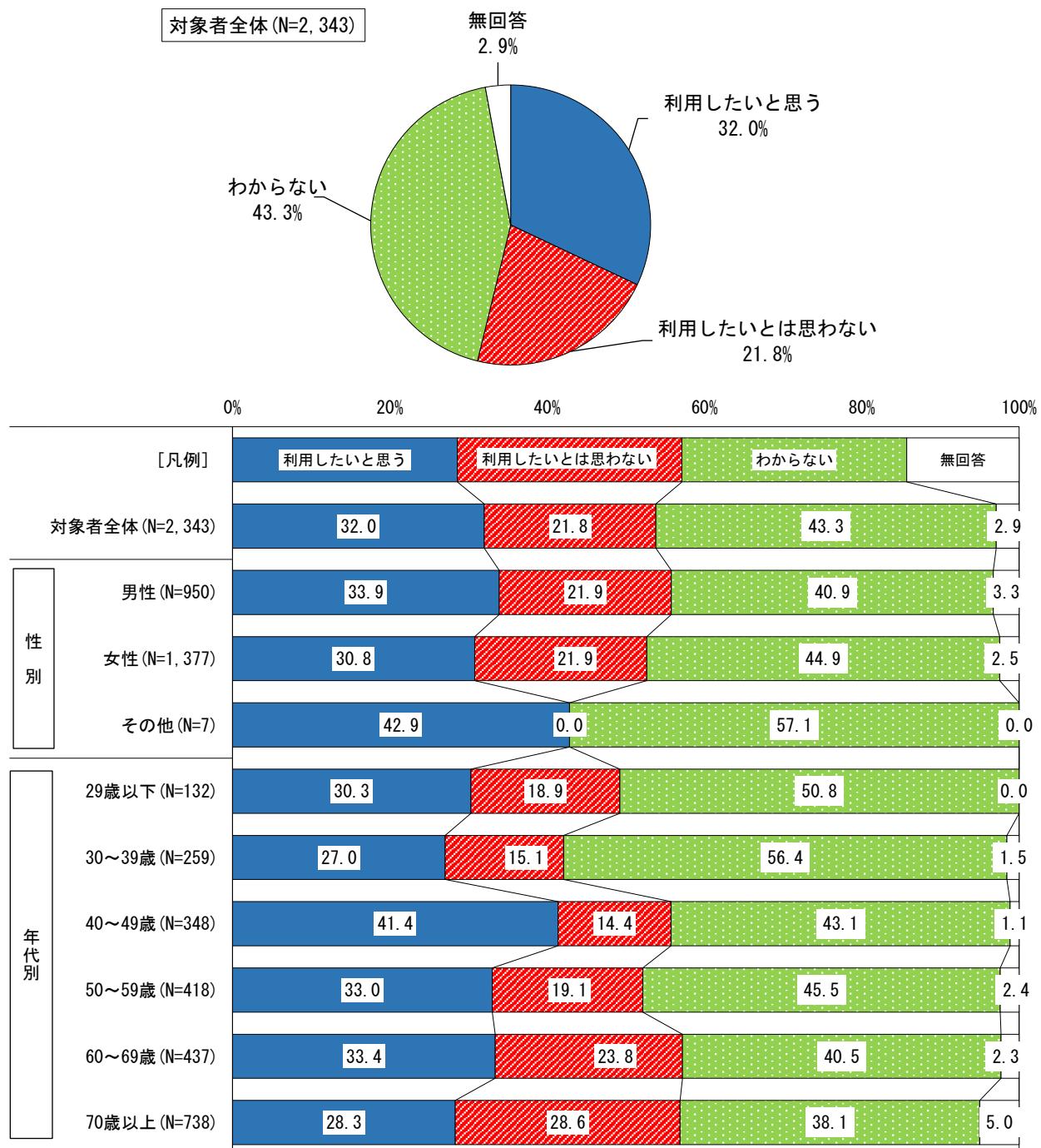
**【性 別】**男女で大きな差は見られない。

**【年代別】**「制度の名称も内容も知っていた」が 60 歳代 (41.2%) で最も高く、最も低い 29 歳以下 (20.5%) と比べると 20.7 ポイントの差となっている。

◇成年後見制度の窓口があった場合、相談窓口を利用したいと思うか否か

問9 あなたは、身近に成年後見制度について相談できる窓口があった場合、その窓口を利用したいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

**成年後見制度の窓口があった場合、相談窓口を「利用したい」人は 32.0%**



**【全 体】**成年後見制度の窓口があった場合、相談窓口を利用したいか否かは、「利用したいと思う」が 32.0%、「利用したいとは思わない」が 21.8%となっている。

**【性 別】**男女で大きな差は見られない。

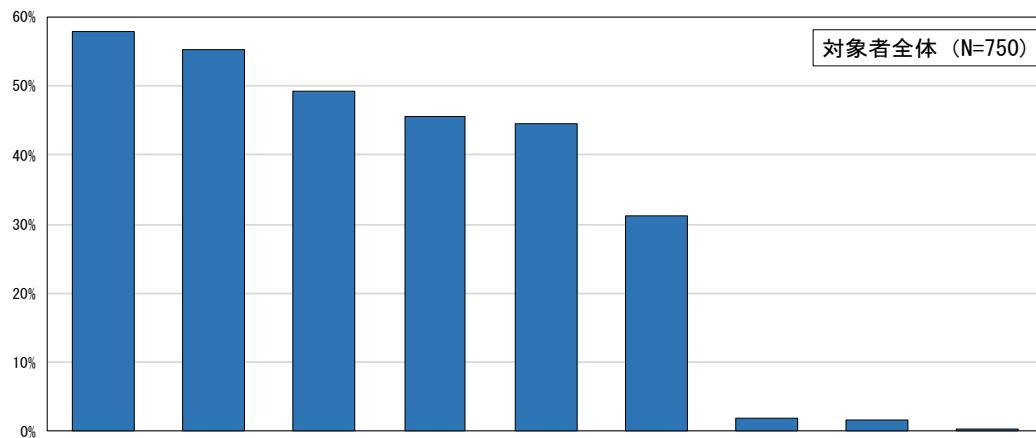
**【年代別】**「利用したいと思う」が 40 歳代 (41.4%) で最も高く、次いで 60 歳代 (33.4%)、50 歳代 (33.0%) となっている。

## ◇窓口で相談したい内容

《問9で「1 利用したいと思う」と答えた方にお聞きします。》

問9-1 あなたは、窓口でどのようなことを相談したいですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

**窓口で相談したいと思う内容は「自身に後見人が必要と考えたときに、後見人探しや手続きなどについて相談したい」が 57.7%**



対象者数 (%)	対象者全般									
	にきつに自身、いて後見人を探がたし必要や要手と続考きたなどと	制度の内容について詳しく聞きたい	制度を利用するための費用に対する助成制度について相談したい	自己が後見人になると活動内容や手続きなどについて相談したい	自己が後見人となったら手続などをどうなさるかについて相談したい	後見活動に参加する法的な問題について相談したい	その他	わからない	無回答	
対象者全般	750	57.7	55.3	49.2	45.6	44.5	31.2	2.0	1.6	0.3
性別	男性	322	52.8	55.0	44.1	44.1	48.4	31.1	1.2	1.2
	女性	424	61.6	55.2	53.1	46.7	41.3	30.9	2.6	1.9
	その他	3	33.3	100.0	33.3	33.3	66.7	66.7	-	-
年代別	29歳以下	40	47.5	50.0	45.0	27.5	57.5	25.0	5.0	2.5
	30~39歳	70	50.0	54.3	54.3	45.7	68.6	32.9	1.4	2.9
	40~49歳	144	58.3	60.4	52.1	39.6	47.9	27.1	2.8	0.7
	50~59歳	138	65.2	47.1	47.8	50.7	50.7	30.4	2.2	0.7
	60~69歳	146	58.2	56.2	47.3	46.6	43.8	35.6	2.1	2.1
	70歳以上	209	56.5	57.9	47.8	48.8	27.8	31.6	1.0	1.9
										1.0

■ 対象者全般の値と比較し10ポイント以上高い  
■ 対象者全般の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】窓口で相談したいと思う内容は、「自身に後見人が必要と考えたときに、後見人探しや手続きなどについて相談したい」が 57.7%、「制度の内容について詳しく聞きたい」が 55.3%、「制度を利用するための費用に対する助成制度について相談したい」が 49.2%となっている。

【性 別】「自分が後見人になると活動内容や手続きなどについて相談したい」は男性が女性より 7.1 ポイントと高く、「自身に後見人が必要と考えたときに、後見人探しや手続きなどについて相談したい」、「制度を利用するための費用に対する助成制度について相談したい」は、女性が男性より 8.8 ポイント以上高くなっている。

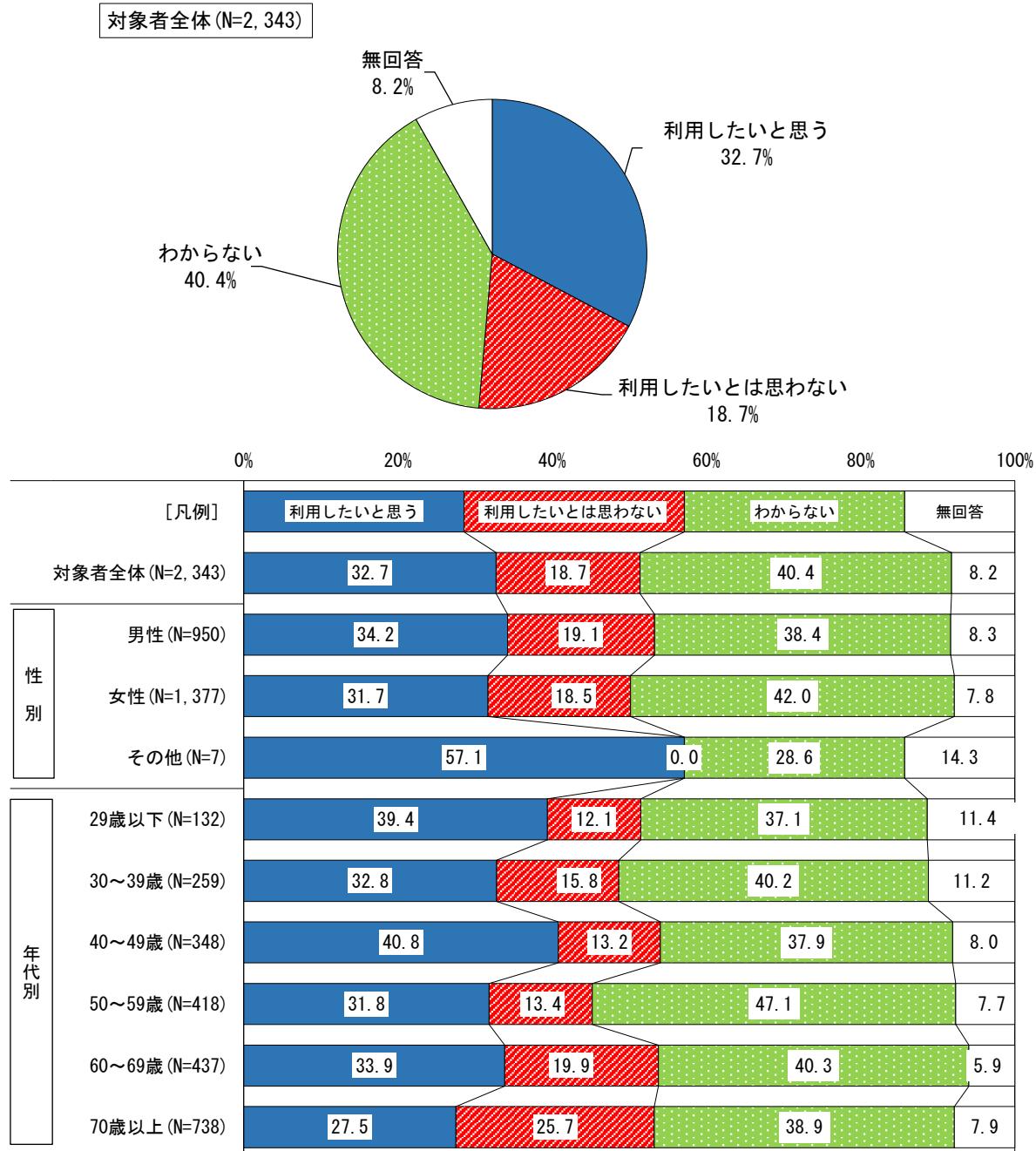
【年代別】「自分が後見人になると活動内容や手続きなどについて相談したい」は 30 歳代 (68.6%) が最も高く、最も低い 70 歳以上 (27.8%) と比べると 40.8 ポイントの差となっている。

◇成年後見制度を利用したいと思うか否か

《皆さまにお聞きします。》

**問10** あなたは、将来的にあなた自身の判断能力が不十分となった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

**成年後見制度を「利用したいと思う」人は 32.7%**



**【全 体】** 成年後見制度を利用したいと思うかについては、「利用したいと思う」が 32.7%、「利用したいとは思わない」が 18.7% となっている。

**【性 別】** 男女で大きな差は見られない。

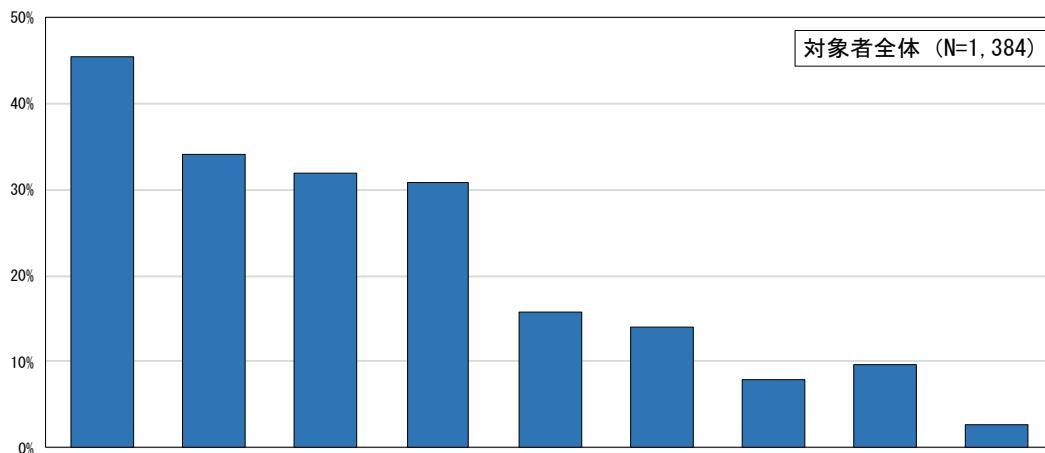
**【年代別】** 「利用したいと思う」が 40 歳代 (40.8%) で最も高く、最も低い 70 歳以上 (27.5%) と比べると 13.3 ポイントの差となっている。また、「利用したいとは思わない」が 70 歳以上 (25.7%) で最も高く、最も低い 29 歳以下 (12.1%) と比べると 13.6 ポイントの差となっている。

◇成年後見制度を利用したいと思わない、わからない理由

《問10で「2 利用したいとは思わない」または「3 わからない」と答えた方にお聞きします。》

**問10－1** あなたが、「利用したいとは思わない」または「わからない」と答えた理由は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

**成年後見制度を利用したいとは思わない、わからない理由は「他人に財産管理をされることに抵抗がある」が45.4%**



対象者数 (%)	抵 抗 人 が あ る 財 産 管 理 を さ れ る こ と に	抵 抗 人 が あ る 財 産 管 理 を さ れ る こ と に									
		か 制 度 な い 内 容 や 利 用 方 法 が よ く わ か ら ん い	複 制 度 そ う 利 用 で す る あ る た め の 手 續 き が	複 制 度 そ う 利 用 で す る あ る た め の 手 續 き が	担 利 用 が か か る た め に 費 用 （ 経 済 的 負 担 ）	担 利 用 が か か る た め に 費 用 （ 経 済 的 負 担 ）	必 要 性 が わ か ら ん い	制 度 自 体 に 良 い イ メ ー ジ が な い	制 度 自 体 に 良 い イ メ ー ジ が な い	そ の 他	特 に 理 由 は な い
対象者全体	1,384	45.4	34.0	31.9	30.8	15.8	14.0	8.0	9.7	2.7	
性別	男性	546	39.9	34.4	29.9	27.8	18.1	14.5	7.1	11.2	3.3
	女性	833	48.9	33.6	33.4	32.7	14.0	13.8	8.6	8.8	2.3
	その他	2	100.0	50.0	50.0	100.0	50.0	-	-	-	-
年代別	29歳以下	65	36.9	41.5	30.8	24.6	18.5	13.8	3.1	9.2	-
	30～39歳	145	51.7	33.8	31.7	29.7	16.6	11.0	7.6	7.6	2.1
	40～49歳	178	51.1	40.4	33.1	37.1	15.7	10.1	9.6	3.9	2.2
	50～59歳	253	44.7	35.6	28.9	33.2	12.6	17.4	9.5	8.3	2.0
	60～69歳	263	47.1	33.5	39.2	34.6	14.4	14.8	9.5	8.4	1.9
	70歳以上	477	41.9	30.0	29.6	26.4	17.4	14.3	6.7	14.0	4.2

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

**【全 体】成年後見制度を利用したいとは思わない、わからない理由は、「他人に財産管理をされることに抵抗がある」が45.4%、「制度の内容や利用方法がよくわからない」が34.0%、「制度を利用するための手続きが複雑そうである」が31.9%となっている。**

**【性 別】「他人に財産管理をされることに抵抗がある」は女性が48.9%と、男性の39.9%より9.0ポイント高くなっている。**

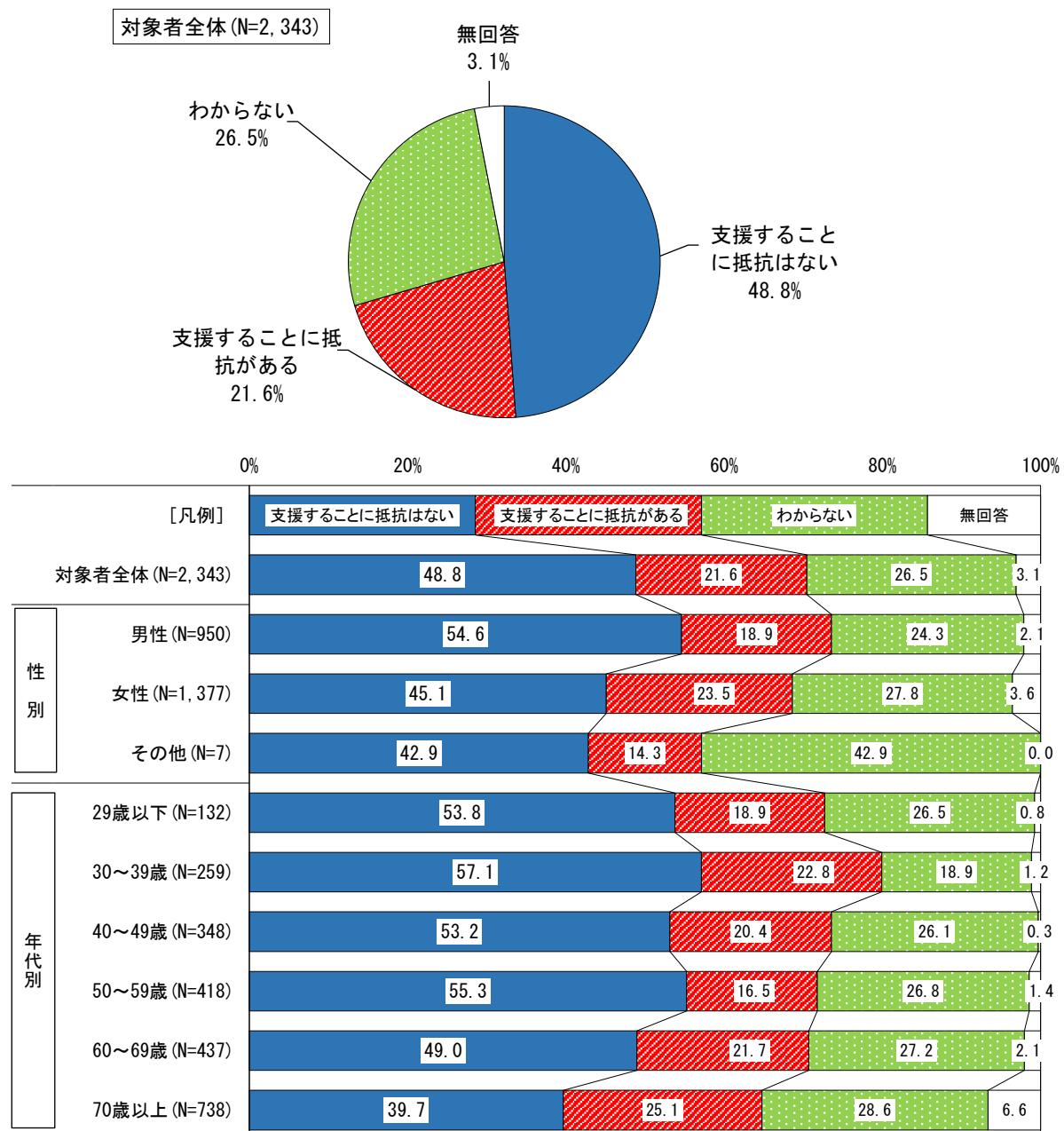
**【年代別】29歳以下では「制度の内容や利用方法がよくわからない」が、30歳以上では「他人に財産管理をされることに抵抗がある」が最も高くなっている。**

◇親族の後見人となって支援することに抵抗があるか否か

《皆さまにお聞きします。》

**問11** あなたは、親族の判断能力が不十分となった場合、親族の後見人となって財産管理や契約行為の支援をすることに抵抗はありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

**親族の後見人となって財産管理等を支援することに抵抗があるか否かは「支援することに抵抗はない」が48.8%**



**【全 体】** 親族の後見人となって支援することに抵抗があるか否かは、「支援することに抵抗はない」が48.8%、「支援することに抵抗がある」が21.6%となっている。

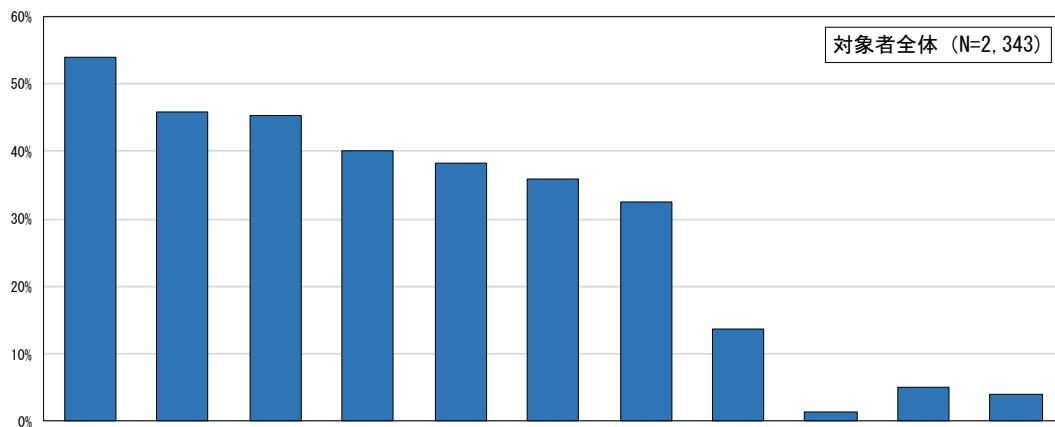
**【性 別】** 「支援することに抵抗はない」は男性が54.6%と、女性の45.1%より9.5ポイント高くなっている。

**【年代別】** 「支援することに抵抗はない」が30歳代(57.1%)で最も高く、次いで50歳代(55.3%)、29歳以下(53.8%)となっている。

◇親族に依頼された時、後見人として支援したいと思える環境

**問12** あなたが、親族から後見人になってほしいと依頼されたとき、どのような環境であれば、後見人として支援したいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

親族に依頼された時、後見人として支援したいと思える環境は「後見活動について相談できる窓口がある」が54.0%



		対象者数	後見窓口活動がについて相談で	い支援するが、協力して医療機関と連携して本業の専門性を生かして、介護の問題を解決する手続を用いて複数の専門家による複数の専門的アセスメントを行って、その結果をもとに、個々の問題を正しく把握して、適切な介護サービスを提供するための制度	されきどを利いて、複数の専門家による複数の専門的アセスメントを行って、その結果をもとに、個々の問題を正しく把握して、適切な介護サービスを提供するための制度	され言が得られ、複数の専門家による複数の専門的アセスメントを行って、その結果をもとに、個々の問題を正しく把握して、適切な介護サービスを提供するための制度	じたが横に並んで、複数の専門家による複数の専門的アセスメントを行って、その結果をもとに、個々の問題を正しく把握して、適切な介護サービスを提供するための制度	が疑問があるが、複数の専門家による複数の専門的アセスメントを行って、その結果をもとに、個々の問題を正しく把握して、適切な介護サービスを提供するための制度	財産の横領が問題となるが、複数の専門家による複数の専門的アセスメントを行って、その結果をもとに、個々の問題を正しく把握して、適切な介護サービスを提供するための制度	が用実力をもとに、複数の専門家による複数の専門的アセスメントを行って、その結果をもとに、個々の問題を正しく把握して、適切な介護サービスを提供するための制度	明習会で、複数の専門家による複数の専門的アセスメントを行って、その結果をもとに、個々の問題を正しく把握して、適切な介護サービスを提供するための制度	後見得する活動で、複数の専門家による複数の専門的アセスメントを行って、その結果をもとに、個々の問題を正しく把握して、適切な介護サービスを提供するための制度	わからぬ	その他	支援したいとは思わない	無回答
		(%)														
対象者全体		2,343	54.0	45.8	45.4	40.0	38.3	36.0	32.5	13.8	1.5	5.2	3.9			
性別	男性	950	52.1	42.7	42.9	39.2	39.1	35.9	33.5	13.8	1.5	3.9	4.1			
	女性	1,377	55.4	47.9	47.1	40.5	37.8	36.0	31.8	13.8	1.5	6.1	3.6			
	その他	7	85.7	71.4	85.7	71.4	71.4	85.7	57.1	-	-	-	-	-		
年代別	29歳以下	132	56.8	48.5	58.3	34.8	35.6	42.4	39.4	12.1	2.3	1.5	1.5			
	30~39歳	259	68.3	60.2	68.7	55.6	59.8	59.8	40.5	4.6	-	0.8	0.4			
	40~49歳	348	66.4	54.3	61.2	49.7	48.9	52.6	38.2	6.9	1.4	3.4	0.3			
	50~59歳	418	55.7	48.6	49.8	45.5	44.3	41.9	34.4	12.2	2.2	3.8	2.4			
	60~69歳	437	55.1	46.5	43.9	39.8	37.1	29.3	32.3	13.7	0.9	5.3	3.4			
	70歳以上	738	41.3	34.6	26.3	27.9	23.8	19.6	25.1	21.4	1.8	8.9	8.1			

対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い

対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】親族に依頼された時、後見人として支援したいと思える環境は、「後見活動について相談できる窓口がある」が 54.0%、「後見人と医療・介護の関係者などが協力して、本人を支援する体制が整備されている」が 45.8%、「制度を利用するための手続きなどの複雑さが解消される」が 45.4%となっている。

【性別】「後見人と医療・介護の関係者との協力について相談したい」は女性が47.9%と、男性の42.7%より5.2ポイント高くなっている。

【年代別】 「その他」、「わからない」、「支援したいとは思わない」以外のすべての項目で、30歳代が最も高く、最も低い70歳以上と15.4ポイント以上の差となっている。一方、「わからない」、「支援したいと思わない」は、70歳代が最も高く、最も低い30歳代と比べると8.1ポイント以上の差となっている。